

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

①医療 A I や広域医療情報連携基盤を包含した医療 D X の推進

世界に伍す医療システムを維持するためには、医療における DX が不可欠であることは論を俟たない。本学会では、1982 年の設立時の理念である「医療情報に関心を持つすべての研究者および実務担当者の学術交流」のもと、医療 DX が叫ばれる以前よりオーダエントリシステムや電子カルテシステムなど各種医療情報システムの導入に関する研究や実践を通じて、医療の情報化・システム化を推進してきており、医療 DX を包括できる唯一の学会と言っても過言ではない。近年では、医療 A I や広域医療情報連携基盤の開発を包含した上で、医療 DX の社会実装や社会的影響など、医療技術評価に関する研究についても取り組みを始めている。

②国内の医療情報標準化、および国際的な標準化の推進

日本医療情報学会では、学会設立時から国際標準規格を意識した医療情報の標準化を推進してきた。SS-MIX2 標準ストレージは、検査結果データを含み、多くの地域医療連携システムや災害時等のバックアップシステム、およびリアルワールドデータ (RWD) 解析システムに活用され、既に全国 1,600 を超す医療施設に導入された。また、臨床系学会との共同による標準退院時サマリーおよび標準随時サマリリーの策定や、生活習慣関連ミニマムデータセットの策定にも、中心的な役割を果たした。さらに、現在厚生労働省が推進しているデータヘルス改革においては、次世代の国際標準規格 HL7 FHIR や厚生労働省標準規格がその中心を担い、PHR(Personal Health Record)基盤も含めた近い将来の社会基盤化が期待されている。

③データ駆動型大規模 RWD 臨床研究・事業の推進

近年の諸外国における医学研究における潮流の一つに大規模 RWD 解析に基づく臨床研究が挙げられる。保険医療制度の整備に伴い標準化されたレセプトデータや DPC データとともに、標準化された医療アウトカムデータや特定健診データが、大規模な RWD 解析に活用され、重要な医学知識や医療システムの改善効果を創出し始めている。

④大規模 RWD 解析研究・医療 AI 研究を推進できるデータサイエンティストの育成

データ駆動型大規模 RWD 臨床研究に加え医療 AI 研究を推進するためには、診療情報システム基盤の構築はもちろんのこと、得られた臨床データを適切に分析でき、AI に長けたデータサイエンスを駆使できる人材が不可欠である。本学会では医療情報技師育成事業を基盤とし、各種のデータサイエンティスト育成事業・関連事業へ参加・協力する形など、総力で進めている。

⑤医療機関のランサムウェア等に対応できるセキュリティ人材の育成

近年、医療機関をターゲットとしたランサムウェアなどのサイバー攻撃の脅威がますます増加しており、医療機関においてはこれらの医療情報のリスクに対処できる人材の育成・確保が急務である。本学会では、医療情報技師育成事業の一環として進めてきたサイバーセキュリティに関する育成内容を

<p>ベースに、知識だけではなく実践力を有する医療情報のセキュリティ人材の育成を強化している。</p>
<p>b.当該領域における国際的な役割</p>
<p>①当学会の理事や幹事が、ISO/TC215 Health Informatics、HL7 International 等の標準化団体にて顕著な活動を行い、診療情報の活用を促進する国際的医療情報の標準化に貢献していること。</p> <p>②当学会の理事が、HL7 Asia の代表としてアジア各国と協調して医療情報標準化を推進していること。</p>
<p>c.活動からもたらされる社会的な意義</p>
<p>①医師の働き方改革が進行する中で、医療 AI および広域医療情報連携を包含した医療 DX を積極的に推進していること。</p> <p>②次世代の医療情報標準規格である HL7 FHIR を中心として、将来を見据えた医療情報の標準化を推進していること。</p> <p>③本学会の会員が医療情報の標準化や大規模 RWD など、医療情報システムの構築、運営、啓発活動を通じて社会制度構築の一翼を担っていること。</p> <p>④RWD 解析研究などを通じて、効率的、標準的、遵法的な健康医療情報の収集と活用の道筋を示したこと。</p> <p>⑤本学会の医療情報技師育成事業を通じて、データサイエンティスト人材、サイバーセキュリティ人材を育成していること。</p>
<p>d.学会運営上留意している点</p>
<p>①医療情報技師を中心とした人材育成</p> <p>②臨床系医学会や情報学・工学系学会とのつながりの重視</p> <p>③国際標準化への対応</p> <p>④健康医療情報システム構築の際のデータ 2 次利用の視点の重視</p> <p>⑤震災やパンデミックに際しての迅速な対応</p>
<p>II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。</p>
<p>①公的競争資金による各臨床学会が実施する健康医療情報を扱う研究において、ルール作りや啓発、学会間連携の推進</p> <p>②医療 AI の臨床利用に関する倫理綱領・ガイドンスの共同提案</p> <p>③臨床学会などとの合同委員会設置による診療の ICT 化やデータ 2 次利用や遠隔医療の共同推進</p>